

2022年度 日本工学院専門学校											
放送芸術科											
映像リテラシーC 1											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	高沢敦博			実務 経験	有	職種	映像制作				
担当教員紹介											
放送業界で製作業務に従事していた マスコミ業界でマネージャー業務に従事していた											
授業概要											
映画・映像評論家とならずとも、製作者として正しい映像の見識を持ち、コンテンツを「主題」「脚本」「演出」「撮影技術」「演技」と視点を複数持ち鑑賞できるスキルを持つことを目的とする。											
到達目標											
学生が特に<実習>において学ぶ技術は、実際どういった場面で、どのように生かせるのか、より視覚的なアプローチで示す授業である。学生は様々な映画、TV番組、映像を解説付きで鑑賞し、撮影技法、演出方法を一体的に学ぶことになる。映像から、それはどのようにどこから撮影されているかを想像し、理解することがひとつの目標となる。											
授業方法											
この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。特にグループワークでは他人に気を遣い過ぎず、まず他人を傷つけることなく自分の意見を上手に伝えること、さらに相手の話をきちんと最後まで聞き、すぐに否定せず理解することを促す。そしてチームの意見としてまとめる努力をする。決して答えがあるわけではない映画を使い、習慣づけることを狙いとする。											
成績評価方法											
レポート	40%着眼点のユニークさと論理性、リスペクトをしているかを評価する										
成果発表	20%授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する										
平常点	40%積極的な授業参加度、授業態度によって評価する										
履修上の注意											
この授業では言葉を発することを促し、思っていること・意見を積極的に言えるようにし、多角的なモノの見方を学ぶので、学生同士の会話をある程度許容する。教員は、学生の勇気をもって発言した内容を否定しない。まず受け止め肯定し、いい点を褒める。次に反対意見、違う意見を求め、対話をリードする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	撮影・照明技術			画面の色合いと撮影現場とのリンクを取る。							
第2回	撮影技術（2）			長回し映像、ワンショット映像の効果と合成技術を理解する							
第3回	撮影技術（3）映画監督の監督性			監督の個性がどのように画面に反映しているのかを考える							
第4回	脚本と演出			カメラを置く位置による役者の心情の表現							
第5回	映像に隠された主題を見分ける(2)			丁寧に説明されないことを想像して解明する ：グループワーク							

2022年度 日本工学院専門学校		
放送芸術科		
映像リテラシーC 1		
第6回	社会問題の扱い方	ドキュメンタリーではない社会問題の扱い方法を考える
第7回	巨匠の映画術	映画史に残る巨匠たちのノウハウを言語化する
第8回	ファンタジーの表現法	1950年代日本映画における「夢」の表現
第9回	ファンタジーの表現法(2)	1999年洋画における「夢」の表現